

## わくわく体験らぼin旭山動物園

【期日】 2026/1/10 ~ 2026/1/11  
 【対象者】 どなたでも  
 【参加人数／募集人数】 1/10：229名 1/11：254名  
 各日100名程度



### 1. 趣旨

体験活動等に馴染みのない青少年やその保護者等を対象に「人と自然との共生」をテーマとしてミニ講演やクラフト体験、冬遊び体験等を行うことにより、体験活動への興味・関心を高め、学校以外での体験活動に参加したいと思う青少年の増加を目指す。

### 2. プログラム内容

	10:30	15:00
1/10 (土)	10:30 動物園開園	15:30 動物園閉園
1/11 (日)	体験会	

### 3. 活動内容

#### ①エゾシカ革チャーム、北海道の動物の折り紙絵本作り (旭山動物園)

エゾシカの革を使ったチャーム作りや折り紙で動物の形を作り、台紙に貼り付けるオリジナル絵本作りを行った。チャーム作りは、制作を楽しみながら、エゾシカの革を資源として活かす工夫について、身近なところから関心を持ってもらうきっかけとなった。



#### ②ウッドバーニングで森づくり (NPO法人C・C・C富良野自然塾)

植樹時の苗木を守る保護プレートに、ウッドバーニングペンでデザインを施した。担当者の「植樹期には木とプレートを見に来てほしい」との言葉に、参加者は完成後に実際に活用されることや現地に見に行くことを想像しながら作成していた。



#### ③雪の結晶作り (十勝岳ジオパーク推進協議会)

十勝岳ジオパークは、中谷宇吉郎先生が日本で初めて雪の研究をした場所であり、この歴史にちなみ、ビーズで雪の結晶の模型作りを実施した。参加者は複数の結晶のパターンから好みの形を選び、青や白のビーズで細かい作業に熱心に取り組んでいた。



#### ④ウッドクラフト（ネイパル砂川）

木の輪切りが持つ年輪や様々な形を生かし、世界に一つだけのネームタグを制作した。参加者はやすりがけをした木に動物や名前などを自由に描き、オリジナルのタグに仕上げていた。



#### ⑤ゆきあそび広場、オリジナルキーホルダー作り（大雪青少年交流の家、日高青少年自然の家）

プラ板やパラコード、木などを組み合わせ、キーホルダーを制作した。参加者は、試行錯誤しながら組み合わせやデザインを工夫し、自分だけのキーホルダーを完成させた。屋外では、雪上ストラックアウトやトボガンダービーなどの活動を行った。



#### ⑥おはなし会

各ブースの体験と連動したテーマのおはなし会を実施した。旭山動物園と富良野自然塾によるヒグマの生態解説、十勝岳ジオパークによる雪の結晶の仕組み解説、富良野自然塾による地球の歴史や現状を知るプログラムを行った。



### 4. アンケート結果

質問：本イベントへの満足度を教えてください。（％）

満足	やや満足	やや物足りない	物足りない
93	4	3	0

### 5. 参加者の声

- ・動物にはあまり興味がないと思っていたが、クマの話を聞いたり毛皮やふんを見たり触ったりしたことで、動物園の他の動物にも興味をもったようでした。
- ・二酸化炭素に興味を持ち、自然に対する会話が親子の間に生まれました。
- ・多くの体験があり、魅力の多いイベントでした。子供達の満足度も高く、時間が許すなら全てのお話を聞きたかったです。存在を耳にしていただけの団体と接する事も出来、興味が沸きました。雪が溶けたらぜひ参加したいです。
- ・様々な内容のブースに自分から積極的参加する姿を見て成長を感じました。
- ・子どもも大人も楽しみながら学べるとても良い機会でした。
- ・楽しく工作をしながら、自然について興味を持ってくれたと思います。
- ・親としてこういうイベントに子供と参加出来たことが良かったと思います。今後こういうイベントを通して、子供はもちろん親も改めて知識などを学習できて良かったと思います。
- ・まだ少し難しいかな、と思うような工作でも自分で完成させていていつのまにか成長していたんだと感じた。

### 6. 事業の成果

- ・両日とも想定を超える200名以上の参加があり、体験活動への潜在的なニーズが高いことが明らかになった。今回実施した5つのブースは15分程度で挑戦できる内容になっており、どのブースに挑戦するかを参加者が選ぶことができる点や幼児から大人まで各々が習熟度で取り組める包括的なプログラムにより、幅広い年齢層の体験意欲を引き出すことができたと考えます。
- ・一部ブースでは、体験後に事業所のパンフレットを直接手渡すことで、得られた達成感を一過性のものにせず、今後の活動への興味を維持させる具体的な動機付けを行うことができた。また、受付で体験活動の啓発資料や体験活動情報サイトの情報を配布し、保護者への普及啓発を行うことができた。
- ・本事業をきっかけに、関係団体との連携強化を図ることができた。今回限りにせず、引き続き連携し、取組を行っていききたい。